



過去の教訓を生かす大切さ

2024年・令和6年の新春を迎え、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

まずは、令和6年1月1日、能登半島地震により亡くなられた方々に哀悼の意を表しますとともに、被災された全ての方々にお見舞いを申し上げます。

【1月9日(火)全校朝礼、校長挨拶より】

全校生徒の皆さん、おはようございます。2024年、令和6年が始まりました。新年を迎え、新たな気持ちで頑張りたいところですが、1月1日、石川県能登地方を震源とする地震で、石川県は現時点での死者数168名、連絡が取れない安否不明者323人に上るとの報道がありました。

私たちは、一人でも多くの命が救われることを願うことしかできません。そのような中、ご家族、ご親族、友人等が今回の震災に巻き込まれ、辛い思いをしている方々が私たちの周辺にいることも考えられますので、日常生活における言動にはくれぐれも気を付けなくてはなりません。また、今回の震災関係で心の不安や、心配事のある生徒がいたら、担任や話しやすい先生に気兼ねなく相談をしてください。

また、1月2日には羽田空港で日本航空と海上保安庁の航空機が衝突し、海上保安庁の職員5名が亡くなりました。海上保安庁の航空機は、能登地方の震災に伴う援助物資を空輸する途中でした。事故の原因は現在調査中ですが、亡くなった5人の職員のご家族のことを考えると、なんともいたたまれない気持ちになります。今回の震災と事故で亡くなられた方々のご冥福を改めてお祈りします。

さて、今回のような震災や事故は誰にも予測ができません。予測できないからこそ、学校では毎月1回の避難訓練と安全指導を行っています。今回の日本航空の事故において乗客乗員379名が無事脱出できた背景には、日本人であれば誰もが子どもの頃から経験してきた避難訓練の成果があったとも言われています。

私たちは、今一度、いつ起こるか分からない震災や事故に備えた訓練の意義を再認識しておくべきです。災害や事故は「めったに起きないもの」ではなく、「頻りに発生して、その度に私たちの命を脅かすもの」という認識をもつべきでしょう。災害の怖いところは、私たちの人生にとって初めて起こったその1回の災害や事故が命を奪ってしまう本番の1回になってしまうということです。「これまでの経験でなんとかなる」ものではなく、「東日本大震災や阪神・淡路大震災、そして今回の能登半島地震が自分の住むところで起こったらどうなるのか」「想定外の事故に遭遇したときどうするのか」と、よその土地の出来事とか、他人事ではなく「我が事」として捉え、来たるべき1回に備えて継続的に自分たちの危機管理を高め、教育に生かしていかななくてはならないと考えます。

元日と1月2日に起きた震災と事故のことを考えると、今こうして全校生徒の前で話ができているのは、奇跡なのかもしれません。能登半島と同様の地震がもしも東京で起きていたら、今こうして皆さんの元気な顔を見ることはできていないでしょう。そう考えると、一日一日が奇跡の連続なのかもしれません。

私たちは命の尊さを表すときに「かけがえのない命」ということを口にします。かけがえのないとは、文字通り「掛け替えるもの」、つまり代わりがないということに他なりません。皆さんの自宅にある、カレンダーや時計は、時期が過ぎたり、修理しても動かなくなったら掛け替えます。役割を果たせなくなったら無用の長物、いらぬものになってしまいます。つまり、役に立つか、立たないかが物や道具の価値を計る物差しなのです。それに対して命は、代わってくれるものがないという特質をもつものだといえるでしょう。

物や道具と同じく、社会的地位や役割もすべて代理がきくのです。副校長、副会長、副委員長、副班長といった「副」の付く役職があるというのがその証拠です。その人に代わって、その役割を果たす人がいるわけです。

ですが、命そのものは誰も代わってくれません。命は代わるものがないというこの一点において、すべての命は等しく同じ重さをもつものということなのでしょう。皆さんにとって大切な人がこの世から突然消え去っても、社会は何もなかったかのように昨日と同じく過ぎていくのでしょうか。しかし、その人の存在を心から大切に思う人から見たら、その人がいるのといないのでは、世界は一変してしまうほどの大事件なのです。人を大切に思うとはそう言うことなのでしょう。

今回、新年の初めに起きた二つの震災と事故は、過去に起きた震災や事故の歴史的教訓を教育に生かす大切さと、日々、時間に流されながら生きている私たちに、一日一日を大切に生きることの意義を教えてくれているのかもしれない。「生きる」とは、その毎日が奇跡の連続であること、そして人間は誰もが、自分で生きているのではなく、「生かされて」いるのだと思います。そして「生かされている」ことに感謝の気持ちを持ち、一日一日、一分一秒を大切に過ごさなくてはならないということなのでしょう。

令和5年度		1月行事予定表 (家庭用)					中野区立第二中学校			
		今月の目標:寒さに負けず体を鍛えよう								
日	曜	行 事	会議・生徒会・その他	時 程	学 習 室	給 食	2月行事予定(20日)			給 食
		(授業日数18日)					日	曜	行 事	
1	月	元日 教育活動休止日					1	木		○
2	火	教育活動休止日					2	金	安 都立推薦入試発表	○
3	水	教育活動休止日					3	土		
4	木						4	日		
5	金						5	月	朝礼 スキー教室始(Ⅰ)	○
6	土						6	火		○
7	日	冬季休業日終					7	水	スキー教室終(Ⅰ) 学	○
8	月	成人の日					8	木		○
9	火	全校集会 安				○	9	金	避	○
10	水	職				○	10	土	土曜授業 新入生説明会(オープンキャンパス③)	
11	木	専門・中央委員会 事前検診(2)				○	11	日	建国記念の日	
12	金	避				○	12	月	振替休業日	
13	土	土曜授業				×	13	火		○
14	日						14	水		○
15	月	生徒朝礼				○	15	木	専門・中央委員会	○
16	火					○	16	金		○
17	水					○	17	土		
18	木					○	18	日		
19	金	校外学習(1)				○	19	月	生徒朝礼	○
20	土						20	火		○
21	日						21	水	中教研 都立一次・前期入試	○
22	月	学年朝礼				○	22	木		○
23	火	宿泊事前健診(2)				○	23	金	天皇誕生日	
24	水	職				○	24	土		
25	木	スキー教室(2)始				○	25	日		
26	金	連合作品展開始 都立推薦入試				○	26	月	定期考査Ⅳ	○
27	土	スキー教室(2)終 都立推薦入試					27	火	定期考査Ⅳ	○
28	日						28	水	定期考査Ⅳ	○
29	月	振替休業日(2)				○	29	木		○
30	火	スキー教室前検診(Ⅰ)				○				
31	水	職				○				
備考										